

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月29日

【評価実施概要】

事業所番号	0172902132		
法人名	医療法人 臨生会		
事業所名	グループホーム そよかぜ館アネックス		
所在地	北海道名寄市緑丘11-23 (電話) 01654-9-6200		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成20年3月28日	評価確定日	平成20年4月14日

【情報提供票より】(平成20年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)17年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 15人, 非常勤 人, 常勤換算 9.4人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,000 円	その他の経費(月額)	7,000~11,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 250 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	1 名	要介護2	9 名
要介護3	7 名	要介護4	1 名
要介護5		要支援2	
年齢	平均 81.56 歳	最低 72 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・名寄市立総合病院	・医療法人臨生会 吉田病院
---------	-----------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体医療法人が運営する、介護老人保健施設、ケアハウスなどの総合複合施設の中で、名寄市郊外の自然に恵まれた環境の中にあるグループホームです。認知症ケアと予防に有効とされる化粧療法(化粧行動)が大学及び大手化粧品メーカーと理論的に裏打ちされた中で新しい試みとして実践されています。また、近隣住民や地域の人達、利用者・家族、子供達などが参加して開催される「そよかぜ祭」が実施され地域との交流も積極的に行われています。そよかぜ館アネックス便り「ぼかぼか」では、認知症に対する理解や啓発の為の記事の記載がされて町内会館に掲示するなど広報にも取り組まれています。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では、認知症に対する啓発や広報について挙げられていましたが、そよかぜ館アネックス便り「ぼかぼか」では、認知症に対する理解や啓発の為の記事の記載がされて町内会館に掲示するなど取り組まれています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、全ての職員が参加して行われ改善の機会として利用されています。また、外部評価の結果については、職員に報告され改善策が話し合われていたり、運営推進会議にも報告されてケアサービスの質の向上に利用されています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、評価日現在9回実施されています。議題については利用者を中心とした意見交換について 感染症対策について 地域交流についての意見交換 アネックス通信の広報活動について 次回運営推進会議について
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) アネックス通信「ぼかぼか」を毎月発行して、行事参加や日常生活の様子など家族会に報告されています。また、来訪時には健康状態や意見・要望など意見交換がされ運営に反映されています。また、金銭管理は毎月領収書と共に報告され、玄関入り口に「意見箱」を設置して意見や苦情を表せる機会を設けています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入して、地域の行事に参加したり、地元の高中生や保育園児との交流が積極的に行われています。また、近隣住民がホームの畑を耕し協力を戴いたり、町内会役員との日常的な連携が密に行われ、ホームの活動に理解や協力を戴く取り組みや日常的に認知症に対する広報や啓発に取り組んでいます。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム独自のアネックス理念、介護理念、地域理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の達成のために、具体的な目標を掲げその達成度について話し合われ評価されている。		特筆すべき点として、職員が目指すべき年間目標が明確であり、目標達成について評価されるシステムが構築されている。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して、地域の行事に参加したり、地元の高校生や保育園児との交流が積極的に行われています。また、近隣住民がホームの畑を耕し協力を戴いたり、町内会役員との日常的な連携が密に行われ、認知症に対する広報や啓発に取り組んでいます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全ての職員が参加して行われ改善の機会として利用されています。また、外部評価の結果については、職員に報告され改善策が話し合われていたり、運営推進会議にも報告されてケアサービスの質の向上に利用されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議については評価日現在9回開催されている。委員は、市担当者、利用者、家族、町内会役員、他施設の介護支援専門員、施設長、管理者及び職員で構成され具体的に活動に取り組んでいる。</p>		<p>特筆すべき点として、運営推進会議は市担当者も出席の元、定期的実施され具体的に組み込まれています。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>認知症高齢者検索ネットワーク構築など市と話し合わせサービスの向上について日々取り組んでいます。</p>		
<p>4. 理念を実践するための体制</p>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>アネックス通信「ぼかぼか」を毎月発行して、行事参加や日常生活の様子など家族会に報告されています。また、来訪時には健康状態や意見・要望など意見交換がされ運営に反映されています。また、金銭管理についても毎月報告されている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来訪時に家族と健康状態などの意見交換や運営推進会議でのホームの活動の報告や運営についての話し合いなど行われています。また、玄関入り口に意見箱を設置して意見や苦情を表せる機会を設けています。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者、家族に分かりやすいように共用空間に職員の顔写真が掲示されています。また、施設長、管理者は、職員の異動や離職などで利用者に影響を与えないように配慮する取り組みをしている。</p>		<p>今後は、毎月発行されるアネックス通信「ぼかぼか」で、職員の異動時など紹介記事を掲載されることを期待します。</p>


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>グループホーム連絡協議会やケア研究会など外部の研修参加が積極的に実施されている。また、研修参加者の報告会も実施されフォローアップされている。職員のスキルアップのための資格取得を奨励して支援されている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会やケア研究会などの交流で他施設との意見交換や訪問が行われている。</p>		<p>今後は、近隣の他施設との交流や職員の施設見学、交流などさらに取り組んでいくことが計画されています。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、利用者・家族の見学などで職員や他の利用者、場の雰囲気に徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>認知症ケアに有効とされるセンター方式を利用して、利用者の過去の大事な出来事や生活歴を把握するなど本人と共に支えあう関係構築に努力している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>食事の準備や後片付け、観葉植物の世話や百人一首、大人のドリルなどの支援や食の嗜好の把握、外出や趣味への支援、行事参加など本人の希望や意向を尊重した取り組みがされている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護支援専門員の適切な監理のもとに、介護計画は作成されて利用者、家族の希望や医師からの助言、カンファレンスで職員からの意見を取り入れ具体的になっている。また、センター方式が職員に浸透している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヵ月毎の評価や介護支援専門員が中心となってカンファレンスを随時実施し、現状に即した介護計画の見直しが行われている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、通院の支援や散歩、買物など柔軟に支援している。また、看護師が常勤しており、日々変化する利用者の状況に応じた支援が行われている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	利用者をよく知る看護職員が常勤しており、母体医療法人や利用者それぞれの主治医との連携で気軽に相談できる医師が確保されている。また、往診など適切な医療が受けられるよう支援されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について指針が明確化され、本人・家族の意向が確認され、職員間で共有されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した声かけが行われている。また、記録等の個人情報の扱いは法令を遵守している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの希望や思いを把握して、散歩や花見などの外出やレストランでの外食など本人の希望や意向に沿った生活を送れるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、調理や料理の準備、後片付け等職員と利用者が一緒になって行っている。また、職員も一緒に和やかに食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ゆっくりと入浴が楽しめるように一人ひとりの希望やタイミングに応じて週2～3回を目安に支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴が把握され、調理の準備や観葉植物の世話、畑作業、散歩や花見、レストランでの外食など戸外に出かけられるように支援されている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、花見や温泉入浴、名寄神社やめん羊牧場見物、ドライブなど戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、センサー設置などで外出が察知できるように取り組んでいる。また、利用者が外出する時は、職員がさりげなくついていき安全面で配慮されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>防火管理責任者が配置され、火災避難訓練が月2回実施され訓練の頻度が多く習慣となるよう取り組まれている。また、感染症対策や吸引キットが用意され速やかに対応ができるようになっている。</p>		<p>今後は、日ごろより地域の人々の協力を得られるように、地域の人達も参加した火災避難訓練や救急救命訓練の働きかけを行うことが検討されています。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>管理栄養士による指導・助言を仰ぎ、栄養バランスが考慮されている。また、具体的な食事や水分の摂取量が把握され個々に応じた対応がされている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>平屋建てのグループホームで、廊下や居間では採光が採り入れられ明るく清潔感が漂っている。広いリビングでは、利用者の趣味への活動や化粧療法（行動）などの行事に利用されている。広く作られた窓からは、新緑や紅葉が望めたり、広い敷地の畑では野菜などが作られている。また、利用者が気になる音の大きさや臭い、光の強さは感じられない。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、家族の写真やテーブル、ソファが配置されていたり、手作りの作品、観葉植物、使い慣れた家具などが持ち込まれ安心して過ごせる場となっている。</p>		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。